

教員評価とリンクするリポジトリ登録 ～OA率採用とその効果～

第2回SPARC Japan セミナー 2019
オープンサイエンスを支える研究者情報サービスとその展望

2019年12月20日 13:00-17:15
筑波大学東京キャンパス文京校舎 120講義室

沖縄科学技術大学院大学図書館

上原 藤子



OKINAWA INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY GRADUATE UNIVERSITY

沖縄科学技術大学院大学

発表内容

1. 自己紹介
2. 沖縄科学技術大学院大学（OIST）の紹介
3. オープンアクセス（OA）方針&運用指針
4. オープンアクセス（OA）率
5. 本学の研究者情報サービスの現状
6. 研究業績エコシステム案

1. 自己紹介

経歴

沖縄県公文書館（嘱託員）3年

沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館（嘱託員）3年

沖縄県立図書館（奉仕員）1年4か月

2003-2005年ハワイ大学大学院図書館情報学修士課程

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構に
秘書職に応募するが書類審査で不採用

2008-2010年 シラキュース大学院情報管理修士課程

2011年10月 沖縄科学技術研究基盤整備機構

ライブラリアンとして採用

以後、現職

- JPCOARコンテンツ流通促進作業部会会員
- IOP Asia Pacific Library Advisory Board member

OIST設立経緯

2002年 サイエンス系大学院設立計画のニュース

2005年9月 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構発足

2009年7月 沖縄科学技術大学院大学学園法案、衆議院で
全会一致で可決。

2011年8月 沖縄科学技術研究基盤整備機構
ライブラリアン募集開始

2011年10月 文部科学大臣により大学設置に係る認可

2011年11月 沖縄科学技術大学院大学学園設立

2012年9月 沖縄科学技術大学院大学開学

2. OISTの紹介

5年一貫制の博士課程を置く大学院大学

特徴：

- 公用語：英語
- 国際性：学生と教員の半数以上は外国人
- 学際性：分野の壁を超えた共同研究や交流が推奨されている。
- 教育：1名の教員に対して2名の学生比率
- 研究助成金：国からの財政支援を受けながら、革新的なイニシアチブをとるべく自主性と運営の柔軟性が確保されている。
- 研究ユニット数：61ユニット（2019年3月末現在）

Nature Index 2019

機関の規模で正規化する「正規化ランキング」が追加
各機関の論文発表数ではなく、自然科学分野の論文数に占める
質の高い論文の割合を算出

OIST 世界9位



2. OISTの紹介 図書館

- コレクション：資料費の99%は電子ジャーナル、電子ブック又はデータベース
- アクセス：セキュリティーカード使用で24時間使用可
- 座席数：26席（キャレル8席含む）
- 職員数：館長1名（教員担当学監が兼任）、職員3名、派遣職員1名
- リポジトリ担当：館長以外の全職員が兼任（導入時1人増員）



3. OA方針 & 運用指針 策定経緯

館長からのトップダウンでワーキンググループの立ち上げ

2015年4月-2017年3月 機関リポジトリワーキンググループ

- メンバー（5名）：館長（教員担当学監）、教員担当学監オフィス、大学院、IT、図書館（リーダー）
- ミーティング：12回
- 報告：図書館委員会（2回）、教授会（1回）

2016年4月-2017年7月 リーガルオフィス、館長との調整

2017年8月 OA方針策定

成果物：

- OAアンケート実施
- OA方針
- 運用指針
- デポジットライセンス
- ワークフローの確立
- ソフトウェアの決定（JAIRO Cloud）

3. OA方針 & 運用指針 策定前の課題

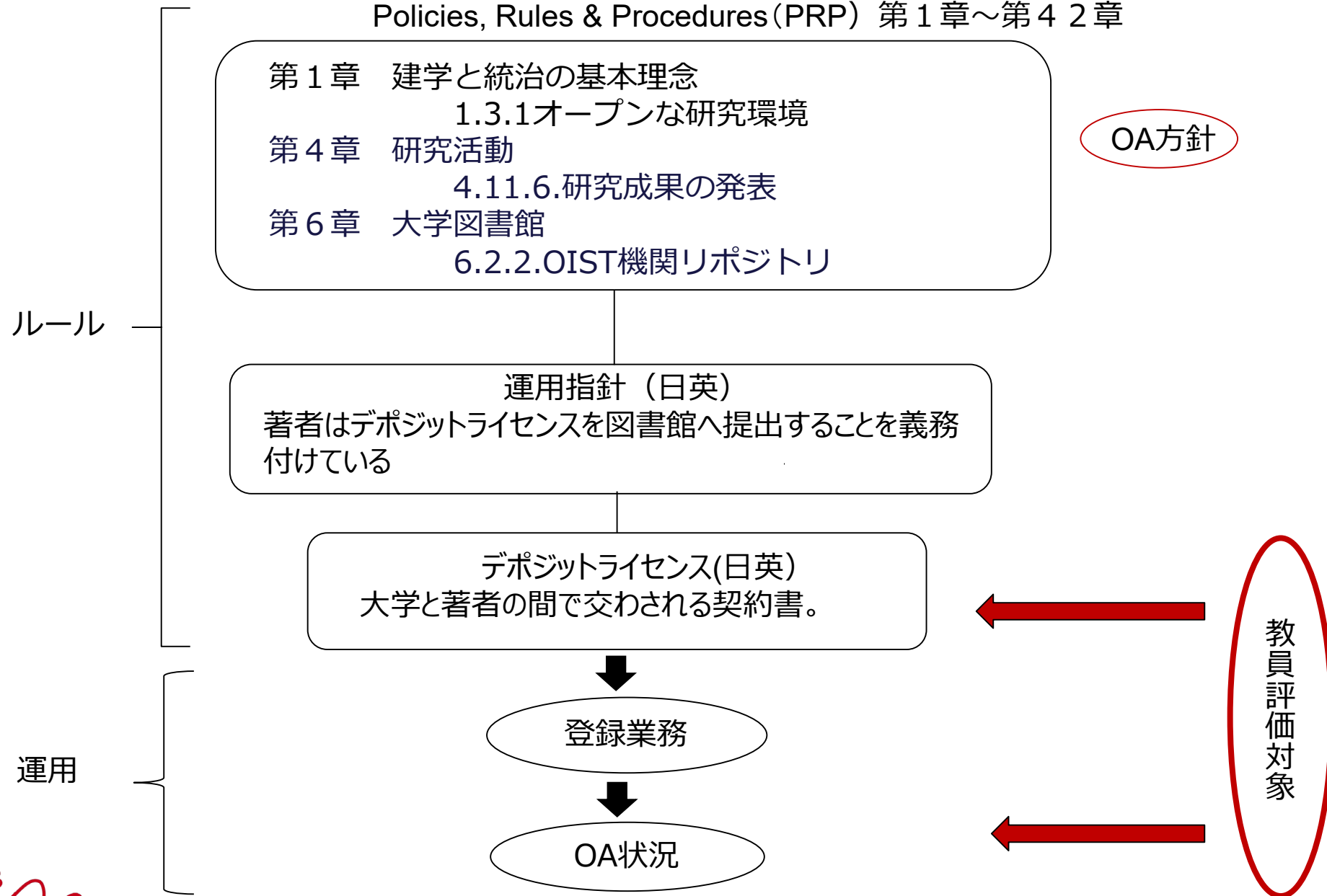
課題①：組織として研究者に同じレベルでOA方針を周知し、協力してもらうにはどうしたらいいのか？

課題②：コンテンツのメインとなる学術論文(著者最終稿) をどのように収集するのか？

課題③：研究業績データベースと機関リポジトリとの線引きはどうするのか？

3. OA方針 & 運用指針 オープンアクセス枠組み

Policies, Rules & Procedures (PRP) 第1章～第4 2章



3. OA方針 & 運用指針

Policies, Rules & Procedures (PRP)

1.3.1 オープンな研究環境

(中略) 本学の研究は、その成果を世界中の科学コミュニティに普及することを意図するものです。

4.11.6. 研究成果の発表

本学で行われた研究の成果は、学術雑誌論文、学会発表、及び同様の適切な場において、迅速に公表されなければなりません (中略) 沖縄科学技術大学院大学機関リポジトリ (以下 **OISTIR** という。) は、本学の知的成果物へのパブリックアクセスを可能とするプラットフォームです。図書館長の承認がある場合を除き、出版物及びその他研究結果はOISTIRに登録されなければなりません。OISTIRへの登録者は、沖縄科学技術大学院大学機関リポジトリ運用指針に従い、オープンアクセスの環境を保つことが求められます。

6.2.2. 沖縄科学技術大学院大学機関リポジトリ

本図書館は、沖縄科学技術大学院大学機関リポジトリ (以下「**OISTIR**」という。) を介して本学の職員及び／又は学生の成果物に対するオープンアクセスを提供します。OISTIRの運用に関し必要な事項は「沖縄科学技術大学院大学機関リポジトリ運用指針」 (<https://oist.repo.nii.ac.jp/>) に定めるものとします。

追加

3.OA方針 & 運用指針

運用指針概要

目的： 研究の科学的な効果を最大限に活用し、組織の研究のプロフィールを高めるために、本学の知的成果物に対して世界中からアクセスできるようにすることである。

方法：

- 1) OISTIRで公開
- 2) サブジェクトリポジトリで公開
- 3) APCを支払い、出版社サイトで公開

コンテンツ内容

登録義務：

- 学術論文
- 博士論文

登録範囲：

2017年1月1日又はそれ以降に出版されたもの

登録者：

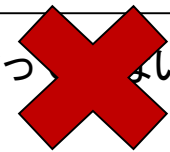
- 本学で雇用されている者
- 学生
- JSPSフェロー

任意登録：

- 2017年1月1日以前に出版された論文
- 図書又は図書の章
- 学術会議資料
- セミナー資料
- 本学出版物



OAになっ
情報



い書誌

版：

- ① 出版社版
- ② ①が登録できない場合、著者最終稿

3.OA方針 & 運用指針

運用指針概要

機関リポジトリ運用に関連する部署・該当者の責任を明確に記述

研究ユニット教員：

- 四半期ごとに教員担当学監オフィスにユニットメンバーの成果物の出版データを提出すること。
- 全てのユニットの著者が「デポジットライセンス」を図書館へ提出していることを確認すること。

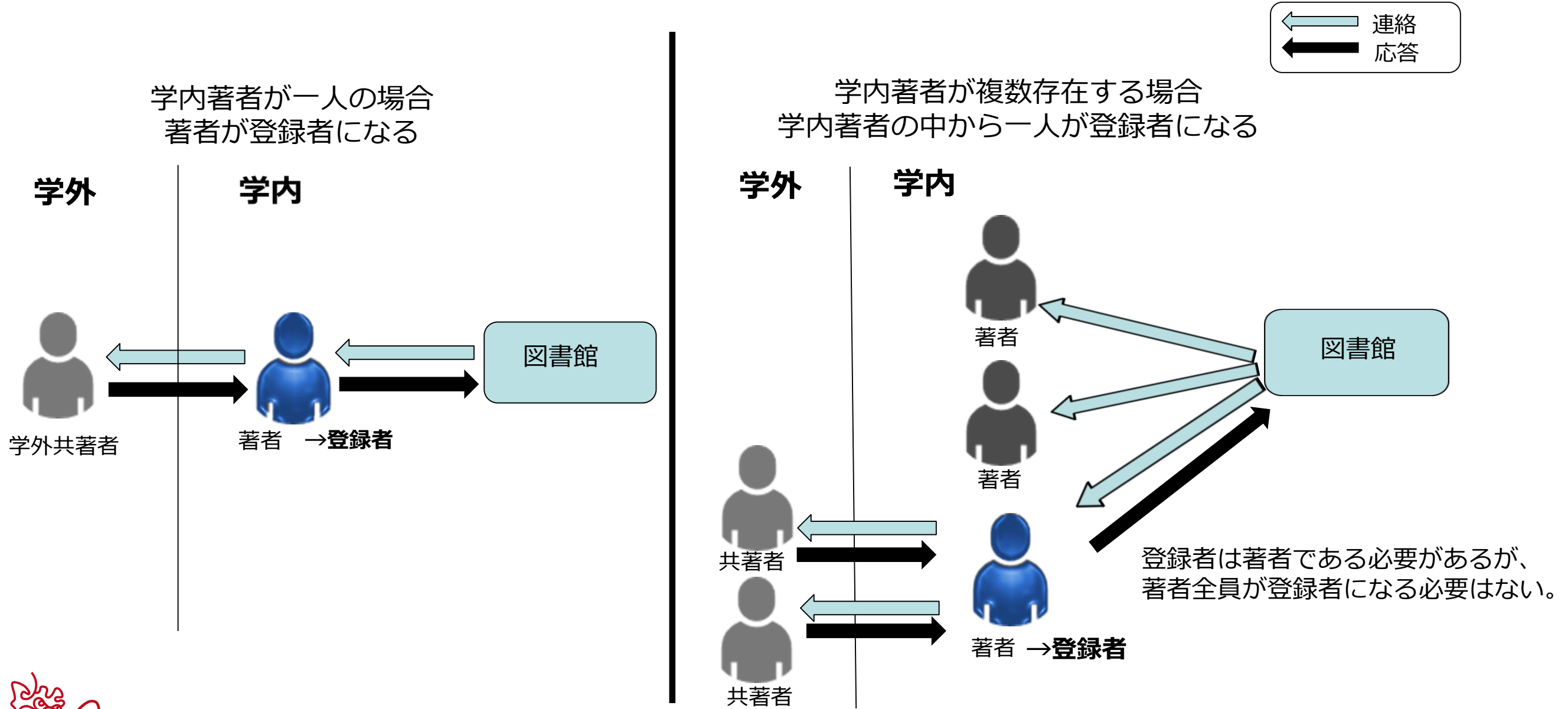
著者：

- 成果物の出版情報について研究ユニット教員に報告すること。
- 「デポジットライセンス」を図書館へ提出すること。

登録者：

- OISTIR に成果物を登録するにあたり共著者から承諾を得ること。
- 適正な本文を図書館に提出すること。
- 著者が出版物を OISTIR (PRP 4.11.6) から除外するべきであると判断した場合、「削除又は非公開申請書」を図書館へ提出すること。

3.OA方針 & 運用指針 著者と登録者



3.OA方針 & 運用指針 デポジットライセンス

全ての著者は在職中に1度限りの包括ライセンスである「**デポジットライセンス**」に押印又は署名し図書館へ2部提出すること。

- 署名は自筆署名又は実印のみ。
- Permanent Email アドレス提示

2017年1月1日又はそれ以降に出版される全ての成果物をOISTIRに登録することに同意する。



各論文ごとに著者から申請や承諾を得る必要がない。

対象成果物に共著者がいる場合、登録者は当該成果物をOISTIRに登録する前に、運用指針に従ってあらかじめ学外共著者による承認を得る責任があることを認識し、これに同意するものとする。



学外共著者への連絡は学内著者が行う。



IN WITNESS WHEREOF, the parties have executed this License in duplicate and each party shall keep one copy in their possession.

以上を証するため、両当事者は本ライセンスを2通署名し、各自1通を保有するものとする。

Depositor 登録者

Print Name _____

Signature _____ Date ____ / ____ / ____

Permanent email address _____

Acknowledged and Agreed by 上記確認し、同意します。

OIST 沖縄科学技術大学院大学

Library Director _____ Date ____ / ____ / ____

A4サイズ5ページ目 (日・英)

3.OA方針 & 運用指針

本学OAの基本姿勢

OAを実行するには著者（登録者）と図書館員が連携して必要なアクションを起こさなくていけない。

著者（登録者）はOAのための義務を果たす

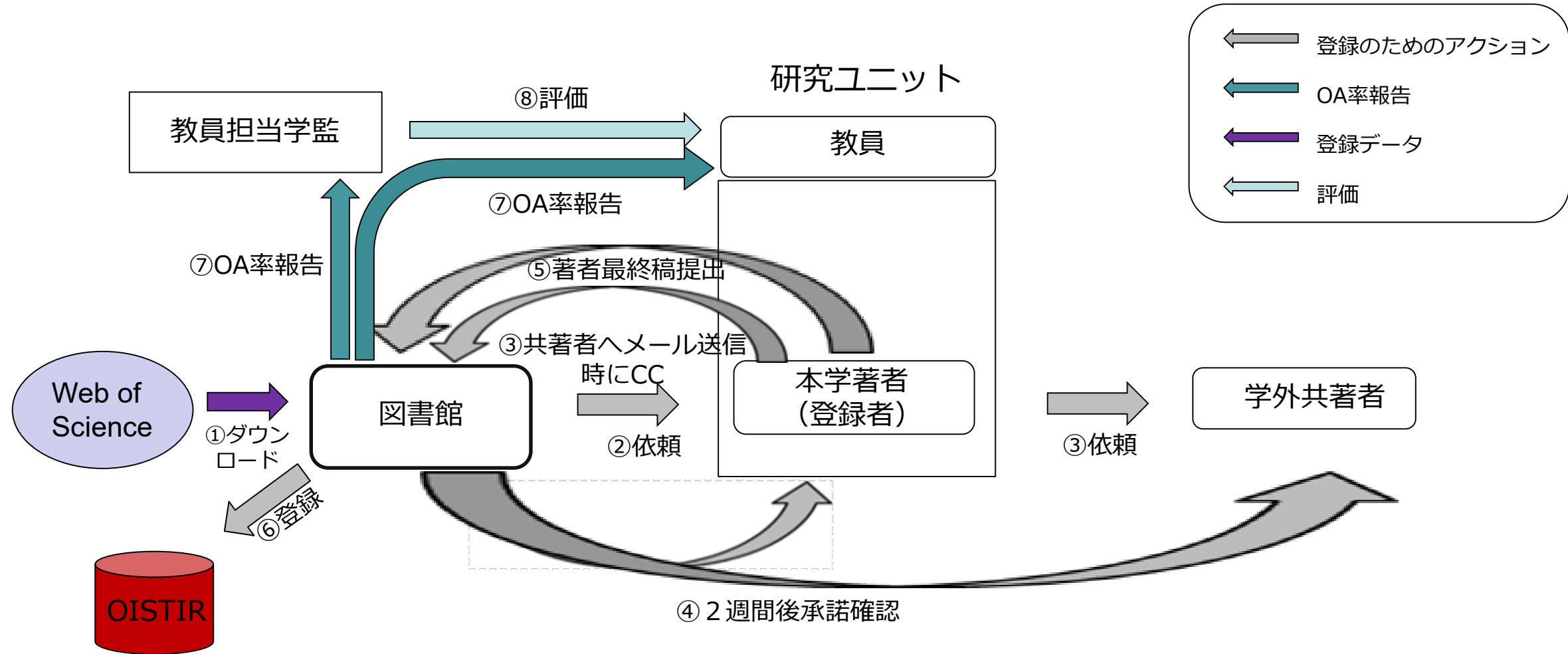
- デポジットライセンスの提出
- 学外共著者への論文登録の連絡
- 必要な論文の版（主に著者最終稿）の提出

図書館はOAのために必要な支援を行う

- 著者に代わって著作権・アーカイビングポリシーの確認
- 成果物のOISTIRへの登録
- リポジトリセミナーの開催
- 教員や事務担当者とのミーティング
- デポジットライセンスの管理
- OAレポートの作成・報告

3.OA方針 & 運用指針 相関図とワークフロー

CCBYなしの学術論文や著者最終稿をリポジトリ登録する場合



3.OA方針 & 運用指針 課題解決方法

課題①：

組織として研究者に同じレベルでOA方針を周知し、協力してもらうにはどうしたらいいのか？

→ルール・運用指針を作成し、研究者に周知し、それに対して評価を行う一連の流れにより全学的な取り組み、協働体制ができた。

課題②：

コンテンツのメインになる学術論文(著者最終稿)をどのように収集するのか？

- 1) ワークフローの中で著者にメールでリクエストして収集する。
- 2) 論文が出版社にAcceptされた時に著者がウェブフォームより提出する。

課題③：

研究業績データベースと機関リポジトリとの線引きはどうするのか？

→機関リポジトリはOAプラットフォームという位置づけを明確にし、研究業績データベースは別途に構築するというコンセンサスをワーキンググループの中で共有できた。

4. OA率

教員評価の指標として採用されることが教授会で決定(2019年)

OA率：OA対象論文がOISTIRで公開されたかという比率
(注：全出版論文に対してのOA率ではない)

$$\text{OA率} = \frac{\text{OISTIRで公開された論文数}}{\text{OA対象論文数}}$$

参考程度の指標ではあるが教員評価の指標として採用されたのは画期的

教員間にOAの重要性の意識を高めるのに役立っている

4. OA率 OAレポート

教員の業績評価対象

OAレポート

ユニット	出版論文数	OA対象ではない論文数	OA対象論文数	OISTIRで公開された論文数	著者のアクションがないためにOAになっていない論文数	OA率
A ユニット	10	-	10	10	-	100%
B ユニット	10	-	10	5	5	50%
C ユニット	10	2	8	6	2	75%

登録状況レポート

ユニット	論文タイトル	本学著者	現状	著者からアクションが必要なこと	公開状況	必要な版	デポジットライセンス提出	URL	Email送信日
Bユニット	論文A	著者A	著者のアクション待ち	学外著者へのメール送信、著者最終稿の提出	未公開	著者最終稿	○	*****	06/25/18
		著者B					×		
		著者C					○		

教員業績評価の指標として採用された後は、OAレポートに対する教員の対応に大きな変化が見られた。

4. OA率 / OISTIR実績

全研究ユニットのOA状況

		2019年4月 2018年度教員評価 終了時点		2019年12月 2019年度教員評価前		
種類		2017年 (1-12月)	2018年 (1-6月)	2017年 (1-12月)	2018年 (1-12月)	2019年 (1-6月)
出版論文数	A	253	140	254	309	153
OA対象ではない論文数	B	22	27	22	44	22
OA対象論文数	C (A-B)	231	113	232	265	131
OISTIRで公開された論文数	D	208	104	212	216	106
著者のアクションがないために まだOAになっていない論文数	E	23	11	20	49	25
OA率	F (D÷C)	90%	92%	91%	82%	81%
出版論文数に対してのOA率	G (D÷A)	82%	74%	83%	70%	69%

資料タイプ別公開数 (2019年11月末)

タイプ	件数	比率
学術論文	520	93%
博士論文	35	6%
会議発表論文	6	1%
合計	561	100%

本文あり：95%

著者最終稿：123 (24%)

4. OA率 教員評価対象・効果

教員評価対象：

- デポジットライセンスを提出済み（教員のみ）
- OA率の提示(1年半分)
 - 2017年1-12月 (%)
 - 2018年1-6月 (%)
- 事前に図書館からこの教員には特に声掛けしてほしいという方はコメント付きで報告。

効果：

- 教員のデポジットライセンス提出率：100%（64名）（2019年9月時点）
- 教員からのOAに関する問い合わせや出版に関する相談が増えた。
- アクションが必要な案件について教員又は研究者の対応が良くなった。
- 教員評価対象になる前と比べて各年数パーセントOA率が上昇した。
- 教員担当学監よりOA率が低い場合には図書館とのミーティングを持つように指示、又は面接終了署名の延期等があった。

4. OA率 成功要因

OA方針策定

- 建学理念にある「オープンな研究環境」を発展される形でOA方針を組み入れることができた。
- デポジットライセンスの提出義務化により、OAの認識が浸透した。
- 適切なリーガルアドバイスのもとにOAの体制をつくることができた。
- 新設大学で国内に類似の機関がなく、新しいことをすることに対する抵抗感が少ない。
- 小規模大学なので全学的な取り組みがしやすかった。
- 欧米で研究した研究者が多いため、OAに対する意識が元々高い。
- ポスドクの割合が高いため、OAのメリットを感じている。

OA率採用

- 教員評価を導入する時と重なったため、他の指標とともにOA率を採用してもらうことがそう難しくなかった。
- 教員担当学監と図書館長が兼任のため、導入・周知が容易だった。
- 他の重要な指標と比べて参考程度の指標である。

日常的な図書館からのサポート体制がしっかりしている。

5. 本学の研究者情報サービスの現状

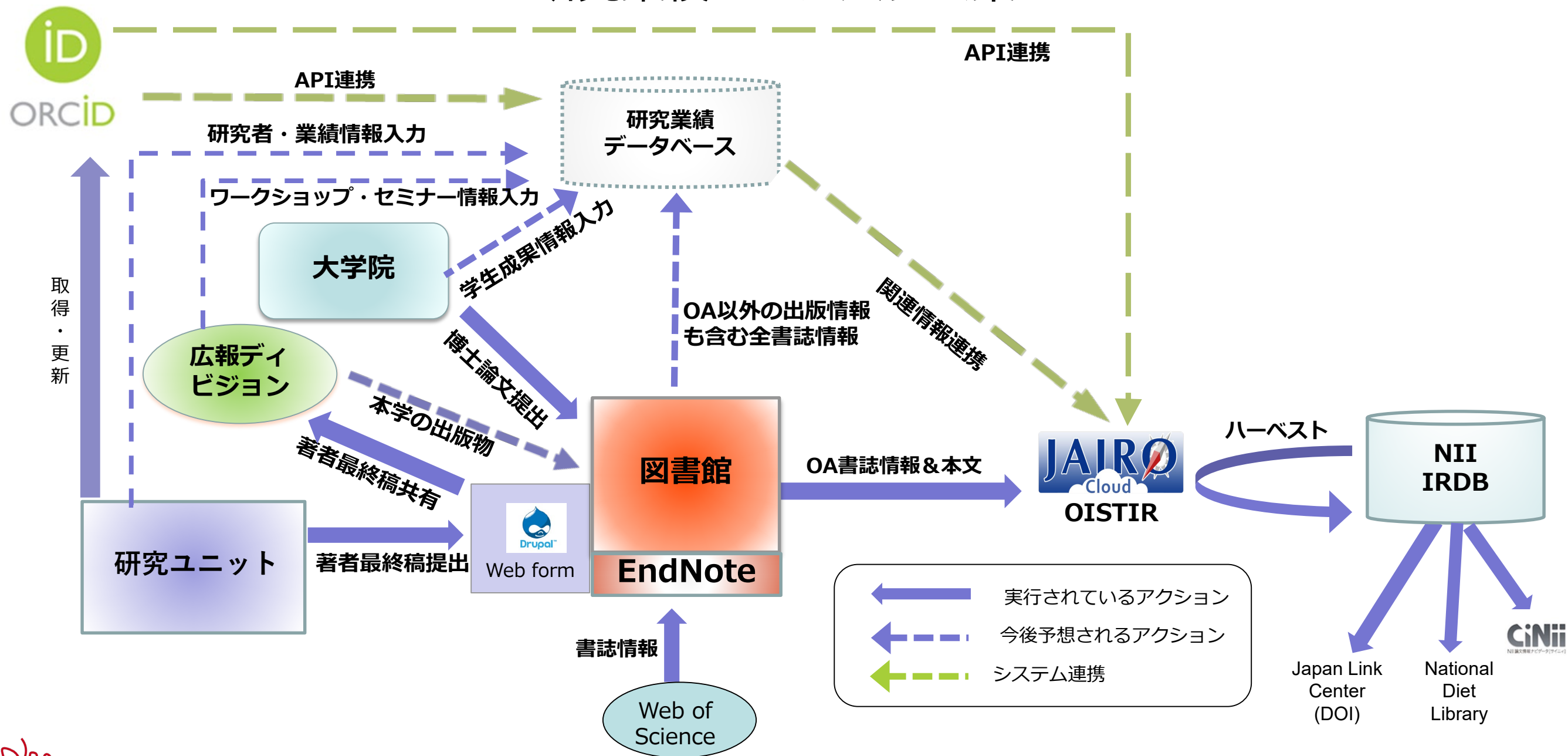
研究者識別子：2015年に全研究ユニットを対象にResearcherIDの提出を依頼した。
→回答しない研究者も一定数存在した。

研究者IDの登録状況 （2019年12月1日現在）

Researchmap	ResearcherID	ORCID
76	480	501

研究業績データベース：その必要性を認識している。

6. 研究業績エコシステム案



ご清聴ありがとうございました